

重点となる具体の学校経営目標(5)【進路指導】							
LHR・インターンシップ・企業訪問・校外実習等のキャリア教育全般を通して、望ましい勤労観、職業観を育んだ上で、生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。							
課・室・学科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価 外部評価
進路指導課	生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。	・進路LHR、総合的な探求の時間を通じて、生徒の進路意識を向上させる。 ・質の高い集会和講話で、専門性を活かした望ましい勤労観、職業観を育む。	<1・2年> ・2年次末までに、進路目標が具体的に 90%以上 決定している。 <3年> ・就職希望者の1次内定率 90% (R02 91%)以上 、最終内定率を 100% (R02 100%) にする。 ・進路アンケートで「進学先が第1志望であった。」と回答する生徒が 80% (R02 85.7%)以上 になる。 <全学年> ・保護者への情報提供として、進路課通信を学期に 1回 発行する。	・コロナにより、2年生就職希望者のインターンシップは中止となった。代替行事として、初めて企業ガイダンスを実施した。オープンキャンパスも中止やリモートでの参加となり、調べ学習が中心となった。 ・3年就職希望者 49名 は、SPIと一般常識の朝学習、面接指導などに取り組んでいる。進学希望者は、小論文個別指導、進学補習など個々の受験に向け準備している。 ・進路課通信を発行することができた。	B	・2年生冬休みに実施した進路希望調査では、進学希望者で具体的な学校名の記入があったのは 98% 、就職希望者で職種が決まった生徒は 86% であった。 ・3年生企業就職希望者 45名 全員が内定をいただき、内定率 100% を達成したが、1次内定率は 81% であった。公務員は 3名 合格した。 ・進路アンケートで「進学先が第1志望であった。」と回答した生徒は、 85.6% であった。 ・進路課通信を学期に 1回以上 発行することができた。	B A
商業科	生徒が主体的に考え、行動し、学んだ知識を生かし、一人一人の個性や希望に沿った進路実現ができるよう支援する。	・インターンシップ・企業訪問・学校外での実習等のキャリア教育を通して、学科の特色や生徒のニーズにあった進路実現を達成するための工夫、組織作りをする。	・学校評価調査の「社会人基礎力の育成」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が 80%以上 (R02 94%) になる。 ・学科のアンケートで「社会人基礎力が身に付いた」と実感する回答が 80%以上 (R02 88%) になる。	・昨年度に続き、インターンシップ・学校外での活動がコロナにより中止になり、貴重な機会を失った。その中で、少人数での実施、オンラインでの実施など、違う方法を模索しながらではあるが、活動を進めている。	B	・学校評価調査の「社会人基礎力の育成」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が 96% であった。(昨年度 94%) ・学科独自のアンケートで「社会人基礎力が身に付いた」と実感する回答が 95% であった。(昨年度 88%) ・今年度も校外での実践的な活動は難しい状況だったが、リモートの活用など、コロナ禍でできることを探りながらの活動ができた。	B A
家庭科	学科の特性を活かし、生徒の個性や希望に沿った進路決定ができるよう支援する。	・生徒個々の情報交換を行い、教員間の共通理解・連携を図る。 ・社会人講師やインターンシップ、企業訪問を積極的に活用する。	・年度末の生徒アンケートにおいて、「納得する進路決定ができた」とする回答が 85%以上 (R02 97%) となる。	・家庭科会議において、生徒個々の進路希望状況について、情報交換を行うことが出来ている。社会人講師については、オンラインでの実施も取り入れ、積極的に行っている。	B	・年度末の学科独自のアンケートにおいて、「納得する進路決定ができた・おおむねできた」とする回答が 99% (昨年度 97%)であった。 ・社会人講師の活用はオンラインでの実施も取り入れ、積極的に行ったが、コロナ禍の影響が大きく、特に実習に関する外部講師をあまり招くことが出来ず残念であった。	B A

重点となる具体の学校経営目標(6)【カリキュラム・マネジメント】							
令和4年度の新学期指導要領実施に向け、準備を進める。また、地域や企業、大学等との連携・協働を進めるとともに、教科横断的(カリキュラム・マネジメント)な視点で、令和4年度から、全教職員で同じベクトルで指導するために「生徒に付けたい力」を今年度中につく決めて、またカリ・マネ研修の中で自分は次年度から授業その他の場面でどのようにその力を付けるかを考え、計画しておく。							
課・室・学科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価 外部評価
教務課	新学期指導要領に対応した教育課程編成に向けて、カリキュラム・マネジメントの手法を研究する。	・本校のビジョンに沿った具体的な方向性を共有する。 ・各教科等での学習内容を洗い出し、カリキュラム・マネジメントの手法を研究する。 ・カリキュラム・マネジメントの視点から、本校の課題とその解決策を共有する。	・各教科等での学習内容を、カリキュラム・マネジメントの視点で検討し課題をまとめる。 ・本校教育の効果を検証し、改善していくシステムをまとめる。	・カリキュラム・マネジメントの中心的な目標として、生徒に身につけさせたい力として「コミュニケーション能力」を設定した。 ・8月にカリキュラム・マネジメントの研修会を行い、教科を横断した形でグループワークを行い、「コミュニケーション能力」を向上させるための、方法を考えたり、共有したりした。	B	・カリキュラム・マネジメントの一環として目標「コミュニケーション能力の育成」の共有化を図った。 ・研修を通じて、「コミュニケーション能力の育成」について、様々な方法について教科を横断して考え、共有化ができた。	B B
図書視聴覚課	生徒の探究的な活動の支援を行い、社会で求められる普遍的な力を育成する。	・教科・担任との連携を図り、図書館の活用を促進し、探究的な活動の支援を行う。	・課室の行事・教科や学科の授業との連携を意識し、図書室における企画・展示を 3回以上 (R02 企画4回、展示10回) 実施している。	・家庭科・国語科等と連携し、教科担当者と事前の打ち合わせ等を行った上で、企画・展示を 4回 実施した。総合的な探究の時間においても、生徒が深い学びに向かえるように、進路課担当者や度々情報共有し、SDGsに関わる書籍の資料提供をしたり、情報検索の方法の学習の支援を行ったりした。	A	・家庭科・国語科等と連携し、教科担当者と事前の打ち合わせ等を行った上で、企画・展示を計 7回 実施した。総合的な探究の時間においても、生徒が深い学びに向かえるように、進路課担当者や度々情報共有し、SDGsに関わる書籍の資料提供をしたり、情報検索の方法の学習の支援を行ったりした。	A A
商業科	令和4年度の新学期指導要領の実施に向けて、教科横断的な視点で社会に開かれた教育課程を編成する。	・小学科の特性を生かした教育課程編成になるよう研究をさらに進める。 ・専門科目と普通科目、家庭学科との連携など、教科横断的な視点で、魅力ある教育課程の編成を考えていく。	・専門科目の学習内容を、カリキュラム・マネジメントの視点で検討し、小学科の位置づけを確立する。 ・課題研究や卒業制作展など家庭学科と連携した取り組みができる。	・本校の教育活動が向上するよう、指導方法の改善を含め協力して取り組んでいく。さらに小学科の方向性を継続して検討していく。 ・教科会議で生徒の進路実現に近づけられるような科目選択群と資格取得の組み合わせなどを検討した。	B	・スクールポリシーの作成などを通して、小学科の方向性の位置づけを達成できる教育活動を今後も継続して検討していく。 ・生徒の多様な進路実現に近づけられるよう、今後も継続して教育課程の共通理解を図っていく。	B B
家庭科	教科横断的な視点に立ち、商業・家庭両学科の学びを融合させる。	・課題研究において商業学科の講座と連携し、課題を発見し解決していく学習を行う。 ・卒業制作展に向けて商業・家庭両学科が連携し、新しい発想を取り入れ、学びの成果が十分に表現出来る場とする。	・課題研究において商業学科と連携した取り組みを複数行うことが出来る。 ・商業学科と連携した新しい卒業制作展を行うことができる。	・課題研究において、商業と家庭の連携した取り組みを複数の講座で行うことが出来る。 ・卒業制作展に向けて、実行委員会を中心に商業と家庭の連携した取り組みを考えることが出来ている。	B	・課題研究において、「調査研究」と「食物」、「DTP」と「コンピュータ」、「秘書実務」と「和洋菓子」の講座がそれぞれ連携して活動を行い、卒業制作展で成果を披露できた。 ・卒業制作展実行委員の取り組みとして、それぞれの学びを活かした地産地消の野菜販売を行うことができた。	B B